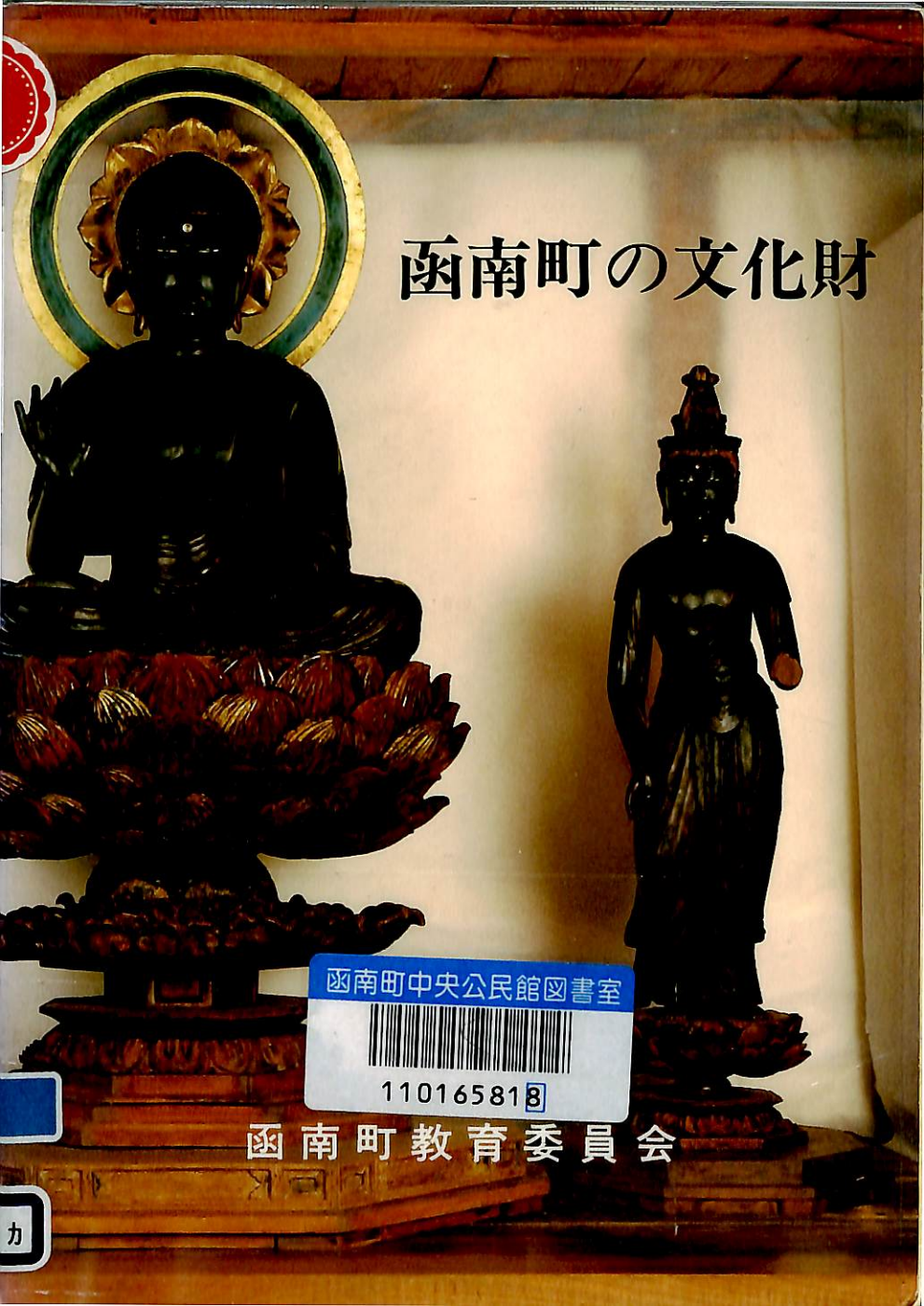




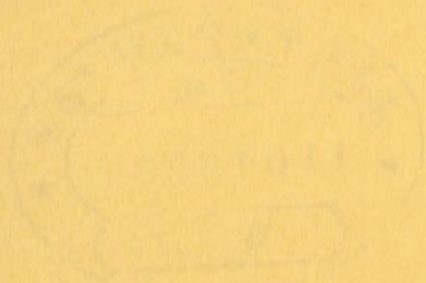
函南町の文化財

函南町中央公民館図書室



110165818

函南町教育委員会



序 文

私たちの郷土函南町には、古くより人々の営みがあり、現在でも各所に貴重な文化遺産が数多く残されています。

こうした文化財は、それぞれの時代の役割を終え、その時代の文化や歴史を私たちに教えてくれています。

先人達が護り伝えてきたこれらの文化財を、次代に伝えてゆくことが現在を生きる私たちの責務だと考え、教育委員会では『函南町の文化財（初版・改定版）』を発行してまいりました。しかしながら、改定版発行からすでに7年余の歳月を経、新たな発見・指定もなされ、より広く知らせてほしいという要望もだされております。

このたび、こうした声に応え新知見を含めた『函南町の文化財』を更に稿を改めて皆様方にお届けいたします。

本冊子をご覧いただき、文化財に対するより一層の理解と関心を深めていただき、その保護・保存、ひいては「ふるさと」函南に対する愛情を深めていただければこれに勝るよろこびはありません。

発刊にあたり、ご指導いただいた文化財保護審議会の委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成 3 年 3 月

函南町教育委員会教育長 露 木 稔

例 言

1. 本書は昭和57年に町教育委員会が発刊した「函南町の文化財」の第三版である。
2. 本書には平成2年9月30日現在指定を受けている国、県、町の文化財、並びに町に残る主要な文化的遺産を収録した。
3. 配列の順序は国、県、町指定文化財、文化的遺産の順である。
4. 本書に掲載した写真は、八木三郎氏の撮影によるものである。

目 次

国指定史跡

- 1 柏谷横穴群…………… 1
- 2 山中城跡（岱崎出丸跡）…………… 3

国指定天然記念物

- 3 丹那断層…………… 5

県指定有形文化財

- 4 木造薬師如来坐像…………… 7
- 5 木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像（三軀）…………… 9

県指定天然記念物

- 6 天地神社のクス……………11
- 7 春日神社のクス……………13

町指定史跡

- 8 八重窪横穴群……………15
- 9 中里横穴群……………17

町指定有形文化財

- 10 薬師堂内の仏像群（二十軀）……………19
- 11 興聖寺の襖絵……………21
- 12 興聖寺のマリア観音像……………23

13	磨崖仏（畑毛）	25
----	---------	----

町指定天然記念物

14	火雷神社の断層	27
----	---------	----

町指定民俗資料

15	双体道祖神（田代）	29
----	-----------	----

16	駒形像（軽井沢）	31
----	----------	----

（国指定史跡）候補

17	箱根旧街道の石畳（石割坂）と 一里塚（江戸から26里目）	33
----	---------------------------------	----

文化的遺産

18	養徳寺の石棒	35	28	石造物	45
19	六万部寺の経塚	36	29	禁伐林	46
20	落合・藤明古墳群	37	30	田方の杜	47
21	仁田忠常の墓	38	31	観音滝・ 不動の滝	48
22	田代城跡	39	32	十国峠と 源 実朝の歌碑	49
23	北条宗時の墓	40	33	丹那の記念碑	50
24	高源寺の境内	41	34	古民具	51
25	法伝寺の仏画	42			
26	八ツ溝用水堰	43			
27	蛇ヶ橋法界塔	44			

函南町の文化財

函南町教育委員会

文化財所在地

● 国指定文化財 ● 町指定文化財
● 県指定文化財

No.	名 称 (所在地)	ページ	No.	名 称 (所在地)	ページ
1	柏谷横穴群 (柏谷)	1	18	養徳寺の石棒 (平井)	35
2	山中城跡 (岱崎出丸跡・桑原)	3	19	六万部寺の経塚 (柏谷)	36
3	丹那断層 (畑)	5	20	落合・藤明古墳群 (上沢)	37
4	木造薬師如来坐像 (桑原)	7	21	仁田忠常の墓 (仁田)	38
5	木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像 (桑原)	9	22	田代城跡 (田代)	39
6	天地神社のクス (平井)	11	23	北条宗時の墓 (大竹)	40
7	春日神社のクス (大竹)	13	24	高源寺の境内 (桑原)	41
8	八重横穴群 (大竹)	15	25	法伝寺の仏画 (賀つの沢)	42
9	中里横穴群 (日守)	17	26	ハツ溝用水堰 (ハツ溝)	43
10	薬師堂内の仏像群 (桑原)	19	27	蛇ヶ橋法界塔 (新田)	44
11	磨崖仏 (畑毛)	21	28	石造物 (畑毛)	45
12	興聖寺の襖絵 (塚本)	23	29	禁伐林 (桑原)	46
13	興聖寺のマリア観音像 (塚本)	25	30	田方の杜 (塚本)	47
14	火雷神社の断層 (田代)	27	31	観音滝・不動の滝 (桑原・冷川)	48
15	双体道祖神 (田代)	29	32	十国峠と源実朝の歌碑 (桑原)	49
16	駒形像 (軽井沢)	31	33	丹那の記念碑 (丹那)	50
17	箱根旧街道の石畳と一里塚 (桑原)	33	34	古民具 (丹那)	51





1 柏谷^{よこあなぐん}横穴群（柏谷）

種 別 国指定史跡
指定年月日 昭和51年2月20日

横穴は、多量の軽石を含む箱根火山新期軽石流層の丘陵地帯、東西600m・南北250mにわたり、300～500基が七世紀から八世紀前半にかけて造営された。この内の一部、12,417㎡が国指定史跡となっている。

横穴の構造は、^{げんしつ}玄室（遺骸を収める室）の床面が長方形、天井がアーチ形、^{せんどう}羨道（入口から玄室への通路）を備えた形の整った形式が多い。羨道には河原石がつまれ（^{へいそくせき}閉塞石）、^{よみ}黄泉の国と現世に分けられた。

なかには玄室を二つ（前・後室）もつ例や棺納施設をもつ横穴もある。北伊豆の横穴の中では最も古い時期の一つとして知られている。

副葬品には土器（^{はじき}土師器・^{すえき}須恵器）や武具・馬具類などの鉄製品、玉類などの装身具の他に^{きっこう}亀甲片がある。

被葬者は、柏谷・平井で発見されている集落遺跡の人々が想定されるが、亀甲が出土していることから「ト部氏」の関係者も含まれていたのではないかとの説もある。



2 山中城跡（岱崎出丸）（桑原）

種 別	国指定史跡
指定年月日	昭和 9 年 1 月 22 日

山中城は、後北条氏が小田原を守る城として、永禄年間第3代氏康の時に創築したと伝えられる。天正17年、全国統一を進める豊臣秀吉と敵対した北条氏は山中城の修造築を急ぎ、葦山辻沿いの岱崎に三島・葦山方面からの街道の抑えとして出丸を増築した。

出丸の地は、頂部は平坦で幅約100m、長さ約300m、標高550m前後、周りは急峻な地形。特に西から南東は眼下に海拔300～350mの来光川の谷底をみる、箱根山西麓中最も発達したV字谷状をなす自然の要害であった。しかし、翌18年（1590）3月29日未完成のうちに山中城の戦いとなり、僅か半日で落城した。出丸の曲輪^{くるわ}は、御馬場曲輪と搦鉢曲輪^{すりばち}の二つであった。

山中城跡は出丸を含め、近年三島市教育委員会の手により、全国でも初の中世山城の全面的発掘調査と、その成果に基づく環境整備事業が実施され、全国にその名をとどろかせている。また、三の丸跡の宗閑寺^{そうかんじ}境内には、攻防両軍の戦死者の墓がひっそりと苔むしている。



3 丹那断層（畑）

種 別	国指定天然記念物
指定年月日	昭和10年6月7日

昭和5年（1930）に伊豆半島北部に発生した北伊豆地震（北豆地震）によりあらわれた断層の跡である。

この断層は桑原の小豚野付近から中伊豆町姫の湯まで、全長35kmに及ぶ深い地割れができ、地割れに沿って水平・垂直に食い違い（ずれ変位）が生じたものである。

指定地には池・排水溝・石垣があり、この真ん中を断層が通っているために、地上の目印となって水平の食い違いがよくわかる。ここでは東側が北へ、西側が南へずれ、その水平移動距離は約2.6mで、さらに西側が東側に対し少し隆起している。

町の中央公民館玄関ロビーには、発掘調査によって取り上げた、垂直ずれを示す実物標本を展示している。



4 木造薬師如来坐像（桑原）

種 別	県指定有形文化財
指定年月日	昭和52年 3月18日

像高110cm、膝張81.3cm、ヒノキ材、一木割^{わりはぎづくり}造、現状素地仕上。堂々とした体軀、円満な顔貌など藤原時代（平安中期）の相を示し、中央仏師の系統を引く者の製作と評価されている。

長源寺境内の薬師堂に安置され、本像・薬師堂ともに桑原区が所有・管理するものである。

本像は、小^こ菅^{はこ}根^ね山^{さん}新^{しん}光^{こう}寺の本尊であったと伝えられている。箱根神社にある『箱根山縁起』によれば、弘仁八年（817）当時菅根^{はこね}に対し、小^こ菅^{はこ}根^ねと呼ばれた桑原に七堂伽藍の大寺（新光寺）を建立したという。

寺の跡といわれる現在の柿生土^{かきうど}周辺からは、かつて布目互が採集され、近年には平清寺（新光寺の子院）の銘が入った版木も付近の民家より発見されている。薬師堂内の多くの仏像やこうした状況から、かなり大きな寺院が平安時代の桑原に建立されたものと推測される。



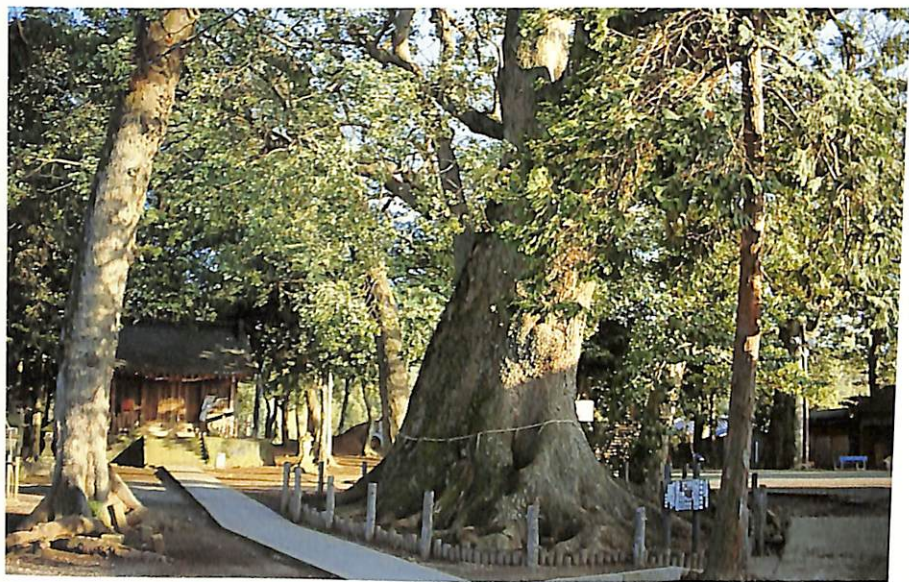
5 木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像（桑原）

種 別	県指定有形文化財
指定年月日	昭和61年12月 5 日

阿弥陀如来は像高89.1cm・^{ひざ}膝張74cm、左脇侍106.1cm^{ひじ}臂張31cm、右脇侍107.2cm・^{ひじ}臂張30.4cmで、台座高は阿弥陀84.7cm、両脇侍28.2cm。本体各ヒノキ材、^{わりはぎづくり}割矧造、^{うちぐり}内割、玉眼嵌入。胎内銘により、仏師「^{じっけい}実慶」の作品であることが判明、製作も鎌倉時代初期と推定されている。

実慶とは、「^{けいは}運慶願経」に名を連ね慶派の中にあってもかなり高位の仏師と推測されながら、その作品は未発見な人物であった。昭和59年、修禅寺大日如来像（県指定）が全国で初めて実慶の作品と判明、本三尊像はこれにつぐ二例目の発見となった。

本像の存在は、実慶その人や、その^{そくせき}足跡をはじめとした彫刻史的問題を解明する上でも、極めて貴重なものである。薬師如来坐像と同じく、桑原区が所有・管理し、薬師堂内に安置されている。



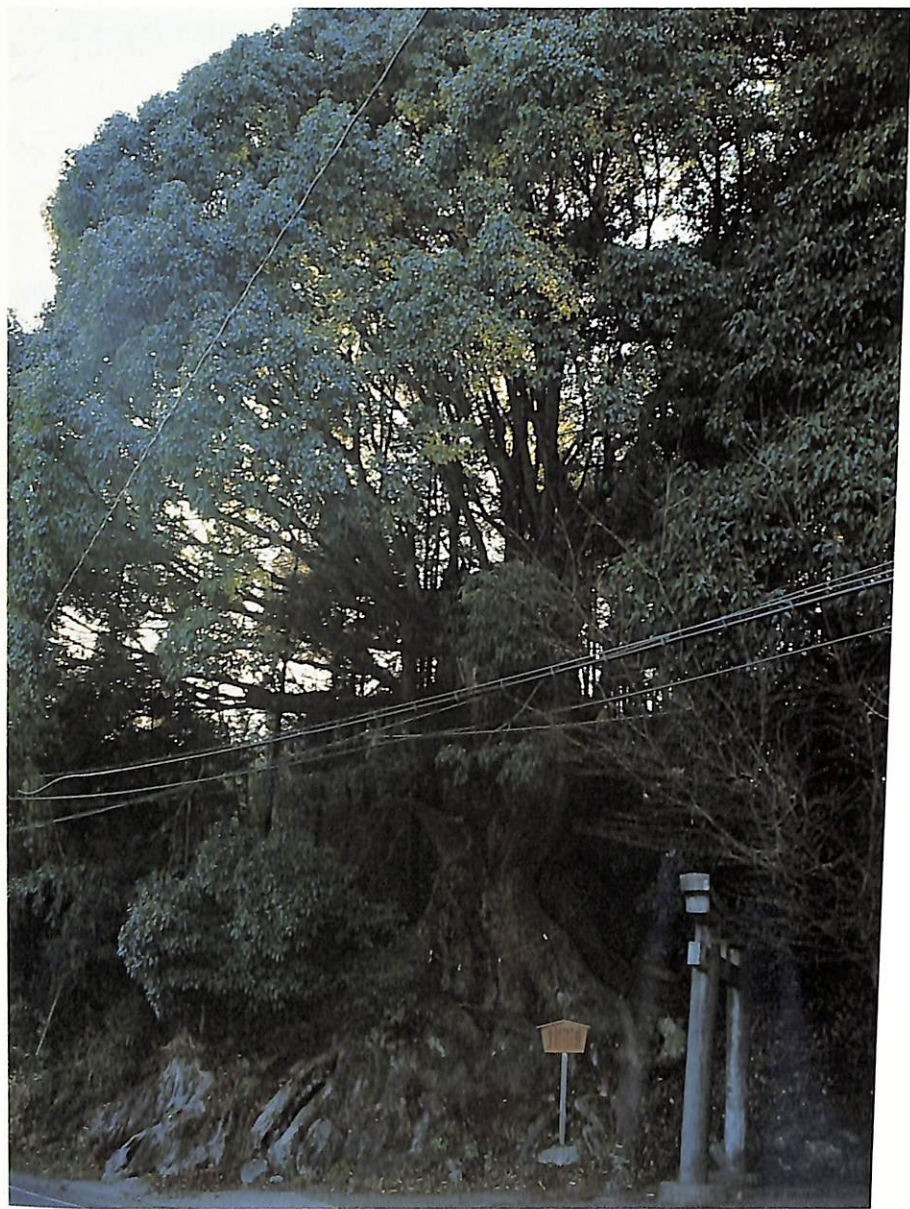
6 天地神社のクス（平井）

種 別	県指定天然記念物
指定年月日	昭和27年4月1日

樹高39.0m、目通幹囲10.6m、根本周囲17.8m、枝張東西30.6m、南北37.1mを測り、推定樹齢は950年。

クスノキは別名クスでクスノキ科クスノキ属。分布は関東地方南部以西、四国、九州、台湾、中国に分布する常緑高木。

かつては樟^{しょうのう}脳（防虫剤等）製造の原料として、造林も各地で行われていたが、開発や生活様式の変化により、現在では神社や寺に残るだけとなった。寿命が長く大木が多いことから、天然記念物に指定されているものも少なくない。



7 春日神社のクス（大竹）

種 別	県指定天然記念物
指定年月日	昭和29年1月30日

以前は樹高が20m以上あったものの、火災や新幹線工事で枝払いされた。また数株あったが北側の巨木が残された。

現在は、樹高17.5m、目通幹囲9.4m、根本周囲11.33m、枝張東西27.0m、南北20.5mを測り、推定樹齢は850年。樹勢は極めて良く、5月の新芽が伸びる頃が最も美しい。

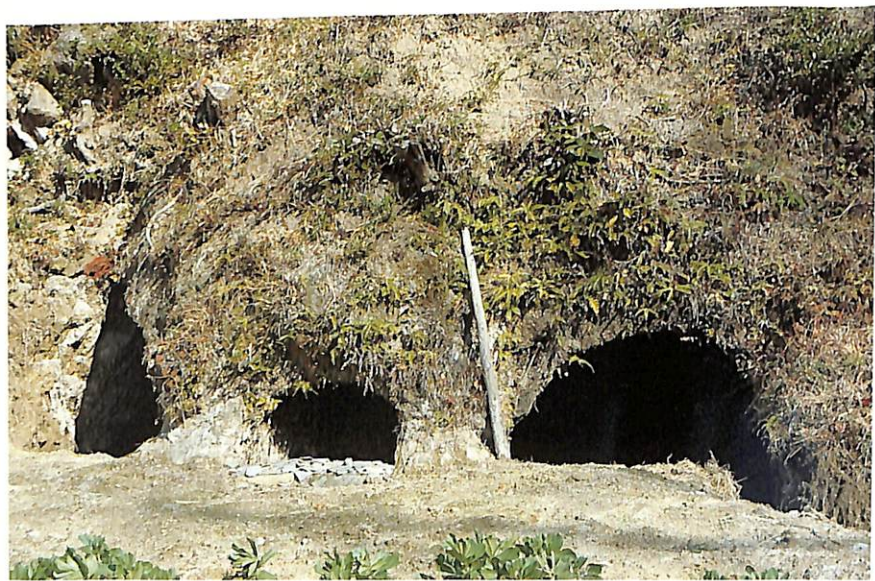


8 八重窪横穴群（大竹）

種 別	町指定史跡
指定年月日	昭和56年 7 月25日

横穴は標高約80～90mの比較的高所に、箱根火山新期軽石流層を掘り込んで造られている。現在33基が確認され、その位置関係などからいくつかのグループで構成されと考えられる。

狩野川流域に形成された北伊豆の横穴群は、大体七・八世紀に造営されている。本横穴群は発掘調査されたことがなく、伝えられる出土品もない。しかし、その形態や規模から、やはり七～八世紀に造営されたものと推定される。



9 中里横穴群（日守）

種 別	町指定史跡
指定年月日	昭和56年 7 月25日

指定時には女坂^{めさか}横穴群（初版・改訂版）と称したが、従来より知られていた中里横穴群と同一の遺跡であることが確認された。

昭和58年度、県教育委員会の手により調査が実施され、3群51基が確認された。これ以外にも採石等により消滅したものや埋没している横穴も予想され、狩野川左岸の北江間横穴群を中心とした地域で、最大かつ中心的な横穴群としての位置づけがなされた。

確認された横穴の中には、奥壁幅が3～4 m、玄室2つをもち全長が7 mを有に越える（入口側未確認）巨大な横穴も発見された。造営された時期は出土遺物（須恵^{すえ}器）から七～八世紀と判断された。

日守にはこの他にも、岩崎（10基）、政戸境（4基）、台の山・下ノ里（各1基）の横穴群が確認されている。



10 薬師堂内の仏像群（桑原）二十軀

種	別	町指定有形文化財
指定年月日		昭和59年11月8日

仏像群は、県指定の薬師如来・阿弥陀三尊像とともに薬師堂内に安置され、県指定を除く二十軀がある。

内訳は、^{じゅうに しんしょう}十二神将像（十二軀）、^{びしゃもんてん}毘沙門天立像、^{しょう}聖観音立像、^{かんのおん}地蔵菩薩立像、^{じざうぼさつ}不動明王立像、^{ふどうみょうおう}万巻上人像、^{まんがんしょうにん}弘法大師像、^{こうぼうだいし}脇侍立像（二軀）である。

本十二神将像は頭髪の中に^{じゅうに し}十二支の動物を^{いただ}戴く形で、薬師如来の信仰者を守護する神である。東京芸術大学の水野教授の所見によれば「後世の補修や彩色があるが、藤原の作品は十二神将の内三軀（卯・辰・亥）、毘沙門天・聖観音・地蔵菩薩・万巻上人。鎌倉期は十二神将の内四軀（丑・午・申・戌）、不動明王は室町末期以降、十二神将の残り五軀は江戸。弘法大師・脇侍はかなり新しい。藤原期の中では毘沙門天が作品的に最も秀れている。」とのことである。

これらの諸像はいずれも新光寺やその子院にあったものと伝えられる。明治の^{はいぶつ きしゃく}廃仏毀釈により危機にさらされたが、地元有志によりこの地に薬師堂を建立し守り伝えられきたものである。いずれも桑原区が所有・管理している。



11 興聖寺の襖絵（塚本）

種 別	町指定有形文化財
指定年月日	昭和58年 3 月16日

興聖寺本堂の杉戸 2 枚に著色で、雌雄一対の大鹿ともみじが描かれている。

もみじの朱も色鮮かに残る。作者・制作年代は不明であるが、構図・色彩・筆勢などから中央の絵師（公家に属する流派）により描かれた鎌倉時代以降の作品と推定される。町内に残る絵画のなかでは美術的にも最も秀れた価値の高い作品で、絵の大きさは縦168・横156cmである。



12 興聖寺のマリア観音像（塚本）

種 別 町指定有形文化財

指定年月日 昭和58年3月16日

興聖寺本堂に安置される。キリスト教は、江戸時代徳川幕府の禁教方針や鎖国政策により厳禁され、その信者は苛酷な弾圧により改宗や断罪を受けた。

こうしたなか、密かにキリスト教を信仰しつづけた人々は、隠れ切志丹と呼ばれ聖母マリア観音を敬った。

本像は、こうした信者が子育て観音と偽り、命がけで守ってきた歴史的背景をもつ像である。全国的にも現存する例は殆どなく、非常に稀有な存在として評価される。

像高32cm、マリアに抱かれたキリストの額にはクルス（十字架）がつけられている。



13 磨崖仏（畑毛）

種 別 町指定有形文化財

指定年月日 平成元年11月24日

磨崖仏とは、自然の丘陵の岸壁や巨岩に彫刻された仏像である。日本では臼杵^{うすき}やおおたに^{おおたに}のそれが大変有名で、周辺では箱根町や韭山町がよく知られている。

本磨崖仏は、三宝荒神社境内の大岩に彫られている。大岩は二つに割れ、一方に像高58cmの地藏菩薩像、他方は径73cmの^{にちりん}日輪とその中に^{ぼんじ}梵字（種子）でキリーク（阿弥陀如来を表す）が線刻されている。梵字の脇には「永徳二年壬戌四月十一日」（1382）の紀年銘がある。こうした紀年銘から、今の箱根・函南・韭山のこの地には十三世紀末から十四世紀末にかけて、盛んに磨崖仏が造立されたことが知られる。

町の石造物の中で、確実な年代が判る最古の例である。



14 火雷神社の断層（田代）

種 別	町指定天然記念物
指定年月日	昭和56年 7 月25日

昭和5年に発生した北伊豆地震（北豆地震）によりあらわれた丹那断層の跡である。

ずれは、神社の石段（西側）と鳥居（東側）のちょうど間を通っているため、これが目印となって水平のずれをみることができる。ここでは、西側が南へ、東側は北へ1m余ずれたものの、主として動いたのは西側（石段）の方である。

畑の丹那断層（国指定）とともに、地上に目印があることから水平ずれがわかるという、世界的にも有名な断層跡であり、国内外の研究者の注目を集めている。

なお、詳細な経緯は不明であるが、昭和6年の天然記念物指定申請の時には、こちら側を申請していた記録が残されている。



15 双体道祖神（田代）

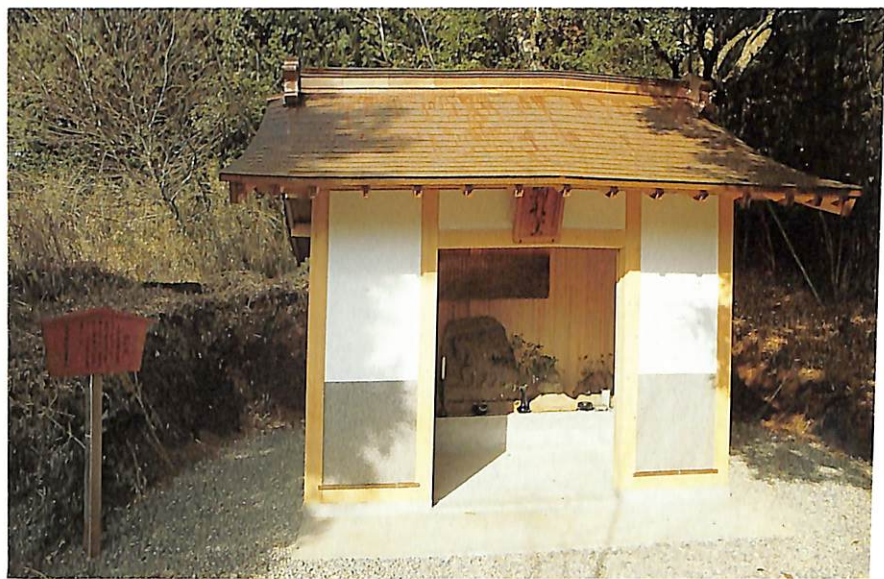
種 別	町指定民俗資料
指定年月日	平成元年11月24日

双体道祖神は伊豆地方では珍しく、田方郡下では五基だけで、その内四基が町内にある。

立像・浮き彫りで、高さ60・幅46・奥行50cmを計り、享保二年（1717）酉十月の紀年銘及び田代村と刻されている。町内の他の三基に比べ像の彫りが最も鮮明で、紀年銘も唯一のものである。

こうした双体道祖神は、信州地方（^{あづみの}安曇野など）で一般的なもので、伊豆地方では単体で丸彫りの「伊豆型」と呼ばれるものが特徴的なものである。

なお、他の三基は桑原日影、丹那新山、軽井沢駐在所前にたてられている。



16 駒形像（軽井沢）

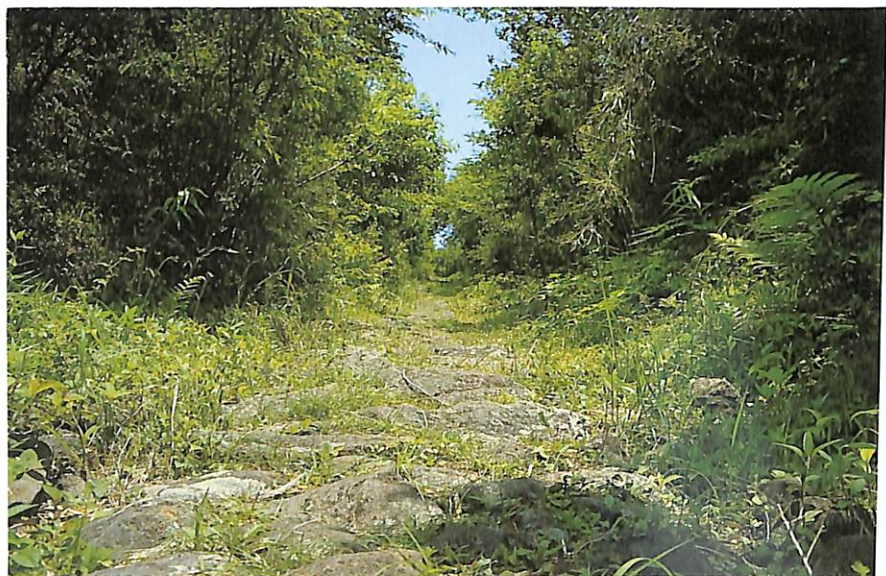
種 別	町指定民俗資料
指定年月日	平成元年11月24日

本像は、高さ91・幅76cmの板状の石に鳥帽子^{えぼうし}単衣^{ひとえ}の人物を乗せた馬（駒）が浮き彫りされている。

製作年代は不詳であるが、町内の石造物の中で稚拙ではあるが、素朴な印象を示し、源頼朝や平将門にまつわる伝説も多い民俗資料である。

一説には、頼朝がこの地で得た名馬「池月」に乗った姿を、彼の家臣秩父重忠が矢の根で刻んだとも伝えられる。

なお、本像を納める駒形堂はもと弦巻山^{つるまき}の中腹にあったといわれる。



17 箱根旧街道の石畳（石割坂）と

一里塚（江戸から26里目）

旧東海道の内、箱根八里と呼ばれる小田原宿から三島宿までを、箱根旧街道という。はじめはひどい悪路で、雨中には笹竹を敷いたという。延宝八年（1680）に石畳に改修。文久元年（1861）皇女和宮の御降嫁^{こうか}に際し、大補修を行い、この時の石畳が現在残っているといわれる。

一里塚は、江戸の日本橋から一里（約4 km）ごとに、大名の参勤交代や旅人の道程の便、馬や駕籠の賃銭の目安、旅人の憩いの場などを目的として造られた。道路の両側に一対であるが、接待茶屋の一里塚は片方のみ残る。

この一里塚から、ややくだった石割坂に約600mの石畳が現存している。

18 養徳寺の石棒

養徳寺の境内に、鬢^{びん}の沢遺跡出土と伝えられる石棒4本が祀^{まつ}られている。完形品はないが、最も残りが良いものは長さ1mの有頭^{ゆうとう}式で、近隣に例をみない逸品である。

石棒は男根を象徴し、縄文時代人の祭祀^{さいし}に使われた、狩猟的・男性的要素の強いものといわれる。鬢の沢遺跡は、縄文時代中期後半から後期（約4500年前頃）の遺跡である。



19 六万部寺の経塚

経塚は、仏教の經典を地中に埋納し、地表に小規模の盛土をし塚を造ったもの。本塚には源頼朝・文覚上人・護良親王に関する伝説が多く、その名称も頼朝が六万部の経を読破したことからだと伝えられる。

高さ3.5m・径13.1mのお椀形で周囲を石積みの柵で囲われている。向原台地にはかつて古墳群があり、本来はその古墳群の盟主墳であり、古墳を後世に整形し経塚に転用したものと推定される。同台地の北東端には、円墳と推定される木戸古墳が残る。また、寺の境内は中世の向原館といわれ、周囲には土塁跡も一部残っている。



20 落合・藤明古墳群

上沢^{あざ}字落合・藤明にかけて（現在の上沢ニュータウン周辺）あった群集墳。昭和31年の工事中に発見、19基が確認されたが30基以上ともいわれた。

昭和32年、三島南高等学校郷土部により、藤明18号・落合9号古墳の2基が発掘調査された。ともに六世紀末に造られ、横穴式石室を主体部とし、9号古墳には箱式石棺が納められていた。

出土遺物には、土器（土師器^{はじき}・須恵器^{すえき}）や武具・馬具類の鉄製品、玉類などの装身具がある。この内、鉄製壺^{つぼ}鑑^{あぶみ}は、この型式では県内で現存する唯一のものである。



21 仁田忠常の墓

仁田忠常は、治承四年（1180）源頼朝の韭山挙兵で初陣を飾り、いらい頼朝に従軍し数多くの功をあげ、その史話も多く残されている。

頼朝没後、北条氏の謀略により加藤景廉に討たれ、37歳で亡くなった。仁田家の屋敷内に現在三基の五輪塔が祀られ、中央が忠常、左右が弟の忠正・忠時の墓として伝えられている。中央の五輪塔身は84cm。



22 田代城跡

源頼朝の武将田代冠者信綱の城跡と伝えられ、浮橋より箱根に至る、当時の街道の要地を占める地に位置する。

外周の総堀^{そうぼり}に自然の谷を配し、城内には曲輪跡^{くるわ}と推測される平坦面も残る、中世の山城である。周辺には、道場屋敷などの小字名^{こあざ}も残る。



23 北条宗時の墓

宗時は、源頼朝の義父北条時政（政子の父・鎌倉幕府初代執権）の嫡子。父時政・弟義時とともに頼朝に従軍、石橋山の合戦で敗走、平井付近で平井名主紀六久重により射取られたと「東鑑」にある。

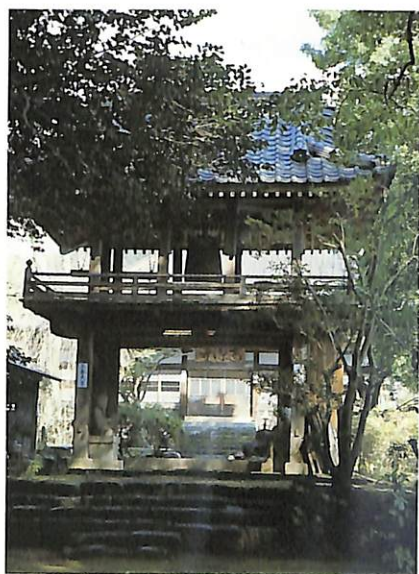
大小二基の宝篋印塔があり、大きい方が宗時、小さい方は狩野茂光の墓と伝えられる。大きい方の塔身は105cm。



24 高源寺の境内

山門鐘楼に至る苔むす石畳、石畳左右の巨樹などが一体となり、静寂で荘厳、古色蒼然な趣をかもし出す。

鐘楼、枯山水は町内唯一のものであり、閻魔・脱衣婆えんま だついばの石像も当寺にふさわしい。道昭、行基、空海、源頼朝、丹後局などにまつわる史実や伝説にも富む寺である。



25 法伝寺の仏画

町内に残る仏画の中では最も古いものと伝えられ、杉材の一枚板に描かれている。因果応報の理をたとえた、地獄、極楽の図三枚より構成されている。着色は殆ど剥落し、制作年代は不明である。源頼朝にまつわる伝説も伝えられる。本堂正面の極楽絵図は104cm×90cm、左右両側の地獄絵図はともに92cm×257cmである。(縦×横)

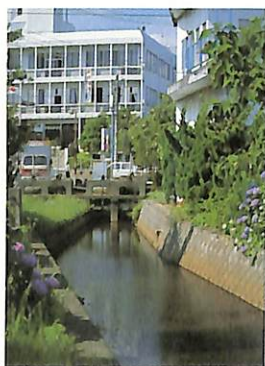


26 ハツ溝用水堰

来光川を上沢で分水し、仁田（現在のハツ溝）まで導水、堰をもって仕切り、仁田・大土肥・間宮・塚本の4か村田地を潤す重要な灌漑用水である。ハツ溝までの途中、大場（三島市）耕地へも分水される。

延享五年（1748）には、塚本村と間宮村の間で、「ハツ溝用水争論」と呼ばれる、分水口の杭をめぐる争いが起き、江戸の奉行所までもちこまれた。この時に、各用水路に西から、仁田溝は一・二、間宮溝は三～五、塚本溝は六、仁田溝は七、大土肥溝は八番と番号づけられた。

構築時期は記録がなく不明であるが、広範な大土木工事であり、近世初頭に開かれたものと推測されている。



27 蛇ヶ橋法界塔

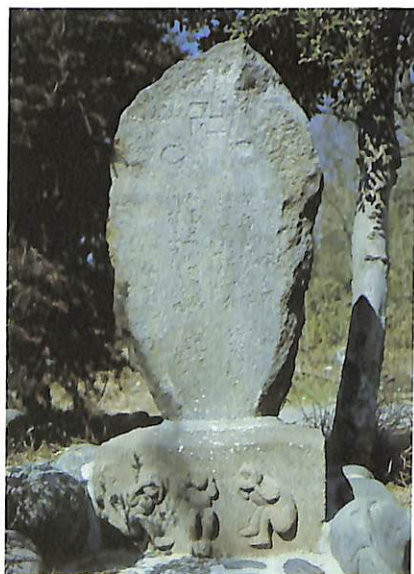
「法界さん」と呼ばれ、韭山代官所から受刑者を三島まで護送する際、当時この地の茶店で休ませ、法を聞かせ道を説いてから橋を渡らせたという。

江戸時代末期の嘉永四年（1851）、伊豆一円の妙法講中により建立された。



28 路傍の石造物

町内に残された江戸時代の路傍の石造物は、現在110基が確認されている。この内、量的に多いものは塞の神42、庚申塔22、馬頭観音16、地藏7基である。ここでは、これらのうち代表的なものを取りあげた。また、紀年銘では日守にある寛文四年（1664）の庚申塔が最古である。



29 禁伐林

箱根外輪山の一角にある玄岳の西南に位置し、その面積は230ha、標高500～850m、500種以上の植物と200種以上の昆虫類の分布が確認されている。

暖帯林と湿帯林の接点にあり、下流地域の水源涵養林にもなっている。現在は学習の道が設置され、動植物の観察もできる。推定樹令700年をこえるブナや赤ガシの大木、ヒメシャラの群生は有名である。



30 田方^{もり}の杜

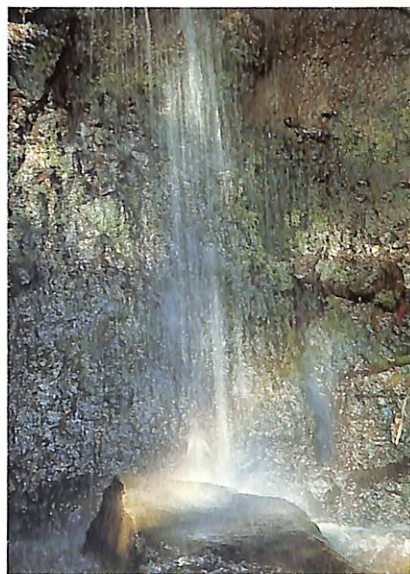
俗に森山という平坦地田圃中に孤立する海拔36mの丘陵、古くは八雲抄にも記されている。古松森々緑苔繁茂する名勝にふさわしい麓に、満宮・王子の二神が祀られている。



31 観音滝・不動の滝

観音滝は、桑原川の上流町営キャンプ場入口近くにある。高さ10mをほこる町内随一の瀑布で、名勝地として貴重である。

不動の滝は、函南駅から約2 km、高源寺に通じる道路脇にある。水量は多くないが年中絶えることはなく、傍に不動明王像を祀る石祠がある。



32 十国峠と源実朝の歌碑

桑原地籍、国見山頂上で十国（相模・武蔵・安房・上総・下総・駿河・遠江・信濃・甲斐・伊豆）五島を眼下におさめることからその名が由来する。標高774m、函南町と熱海市の境界に位置する。

天下に名だたる広大な展望は有名で、鎌倉幕府の三代将軍源実朝が詠んだ歌碑が昭和7年に建てられた。熱海側には日金山東光寺があり、春秋の彼岸は訪れる人で埋め尽される。

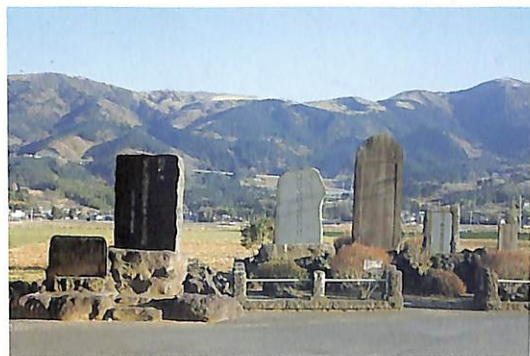


33 丹那の記念碑

丹那盆地の北西に三基の記念碑が並んで建てられている。左は渇水記念碑。丹那トンネル工事により、丹那を中心とした周辺地域は深刻な水不足に陥った。この渇水問題を解決するため、近隣の村々15字関係とはかり、渇水救済促進同盟会を組織し（昭和7年）、県や鉄道省に交渉しその解決を図った記念碑である。

中央、右はともに酪農^{しょうとく}頌徳碑。中央は川口秋助翁、右井出彦四郎翁の、丹那酪農の基礎確立や普及に努めた功績を称えて建てられた。

渇水問題に関連した碑は、この他に平井・宝蔵台にも建てられている。



34 古民具

丹那字西方の旧小学校敷地跡に古民具収蔵庫があり、明治・大正・昭和前半の1000点余の民具が集められている。

主な収蔵品には、木製農機類、織機類、運搬具類、酪農具類、家具調度類、生活用具がある。



函南町の文化財

平成3年3月20日 発行

編集 函南町教育委員会
発行

印刷 (株)三島印刷所

